

デンソーセールスが今年2月に発売した「ナンバー検知・おもてなし支援システム」に、多くのディーラーが関心を寄せている。

これは、昨年3月に発売された遠隔見守りシステム「ZONE D」（ゾーン・ディー）に新機能を追加して商品化した「ディーラー向け業務支援システム」である。来店車両をセンサーでキャッチし、店内にチャイムで通知するとともに、センサーに連動してカメラが来店車両のナンバーを検知し、顧客データベースと照合することにより、迅速かつ質の高いお客様対応を行うことができる。また営業時間外は、ZONE Dの基本機能であるセキュリティシステムとして作動し、展示車両や預かり車両の盗難や車上ねらい、いたずらの防止にも効果を発揮する。

なお、価格はレーザーセンサー、カメラ、専用端末からなる基本システムで100万円（施工費別）からとなっている。

「ぶつからないクルマ」のキーテクノロジーを応用！

デンソーは、かねて「安心・安全なクルマ社会」の実現に努めてきた。しかし、近年はクルマ社会にとどま

デンソーセールスの「ディーラー業務支援」の新提案

**来店車両のナンバーを検知しお客様を特定
だからお客様をスムーズにお出迎えできる**

ナンバー検知・おもてなし支援システム

らず、自動車部品で培ってきた技術を「人々が安心して生活できる安全な社会」の実現のために活かすことに力を入れている。

デンソーセールスが2月から全国の自動車販売会社に販売開始したナンバー検知・おもてなし支援システムもその一環だ。

このナンバー検知・おもてなし支援システムは、ZONE Dの遠隔見守りシステム機能を、ディーラー向けに拡張したものである。そして、ZONE Dの中核をなす構成部品である「レーザーセンサー」は、新車への搭載が急速に進んでいる衝突回避システム、いわゆる「ぶつからないクルマ」のキーテクノロジーを応用したものである。

具体的には、衝突回避システムでは15〜20度だった検知角を190度に広角化し、ひとつのセンサーで広範囲（図①）を検知することができるようになっている。また、検知範囲内に自由な形状の検知エリアを複数設定できるようにしている。これにより、例えば営業時間外にセキュリティシステムとして使用する際には、誤って敷地内に入ってしまった可能性がある車両出入口付近では映像記録にとどめ、警戒レベルの高い店舗入口周辺や車両展示場ではサイレン

図① レーザーセンサーの検知範囲



検知範囲内に自由な形状の検知エリアを複数設定することができる。

を鳴らしたり、威嚇用照明を点灯するなど、検知エリアごとに必要な対応を行うことができる。

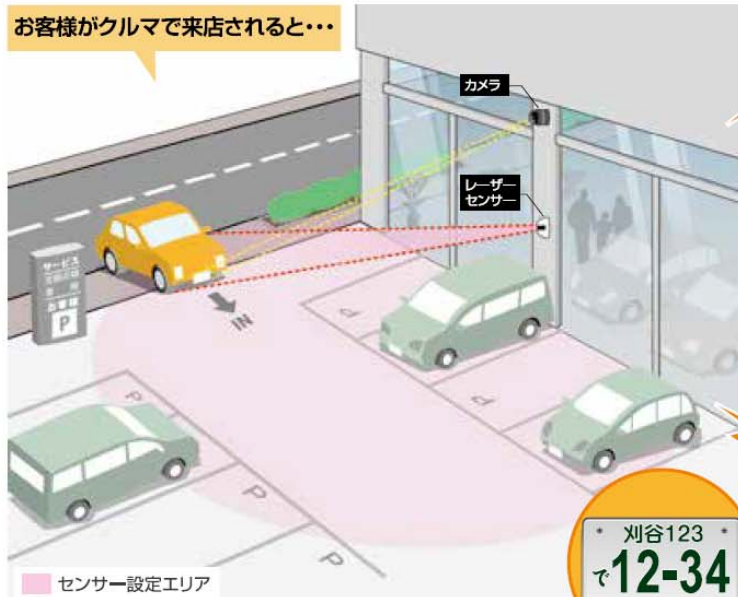
さらに、カメラ自動追尾機能を利用することで、これにより、セキュリティシステム使用時には、検知エリアに人や物体が侵入すると自動追尾を開始し、しかも、自動ズームで侵入者の行動をしっかりとモニタリングする。

もちろん、センサーの精度にも手が加えられており、レーザーレーダと独自のフィルタリング技術により、鳥や小動物、枝葉の揺らぎなどのノイズを除去し、屋外や暗闇でも人や物体の位置と動きを高精度に検知する。

**ナンバー検知&データ照合で
質の高いお出迎えをサポート**

このレーザーセンサーの能力を活

お客様がクルマで来店されると...



センサー設定エリア



来店車両をチャイムでお知らせ。



車両出入口のエリアをセンサーが検知。店舗から見えにくい裏通りからの来店もいち早く店内のチャイムで通知。スタッフに来客をお知らせします。

ナンバー映像からお客様認識を自動化。



店舗入口で来店車両のナンバーを検知。即座に、サービス入庫予約などの来店予定データと照合し、受付端末に表示します。

カメラが車両ナンバーをチェック



3月下旬に公開されたZONE Dのホームページ。業種別の活用事例などが掲載されている。
<http://www.denso-sales.co.jp/fasecurity/zoned/>

かして、ディーラーにおけるより質の高い来店対応を実現するために開発されたのがナンバー検知・おもてなし支援システムだ。
 車両出入口が検知範囲内に収まるようにレーザーセンサーを設置することで、来店車両をセンサーが検知し、店内のチャイムで来店があったことを通知する。
 店舗のレイアウトによっては店内から車両出入口が見通せず、お客様がショールームやサービスフロアに入ってきてはじめて来店に気づく場合もある。また、店内から車両出入口が見通せる店舗においても、スタッフが少ない平日などは来店に気づかない場合もある。そんな時、ナンバー検知・おもてなし支援システムがあれば、チャイムでいち早く来店を知ることにより、素早く駐車場までお客様を迎えに

同様のシステムはすでに数社から発売されているが、ナンバー検知・おもてなし支援システムはそれらとは決定的に異なる特徴を備えている。それらはすべて来店車両のナンバーを認識し、顧客データベースと照合するだけの専用システムであるのに対し、ナンバー検知の業務支援を必要としない営業時間外には、セキュリティシステムとして機能するのである。

**24時間365日機能！
 営業時間外はセキュリティシステムに早変わり！！**

行ったり、クルマから降りて店内に入ってくるお客様を出迎えることができる。
 また、来店車両をセンサーが検知すると同時に、カメラが来店車両のナンバーを追跡して映像を記録。即座に顧客データベースと照合して、来店客の情報を受付や事務所内に設置した専用端末に表示する。
 これにより、来店予定のあるお客様であれば「〇〇様、本日は車検でご利用いただき、ありがとうございます」などと、また飛び込みのお客様であれば「〇〇様、本日はいかがされましたか？」などと、ワン・トゥ・ワンのお出迎えを行うことができる。

営業時間外は安心の『見守りシステム』

営業時間外の夜間や休日は、不審者の侵入をしっかり見守ります。
見守りエリアへの侵入を検知すると、管理者の携帯端末にメールでお知らせ。
自宅のPCやスマホなどの携帯端末から、
ライブ映像の確認や、侵入者への警告・威嚇が、
リアルタイムに遠隔から行えます。



警戒エリア 1 侵入者を撮らえて見失わない。

見守りエリアへの侵入を検知すると、カメラが自動追尾。高画質ズームで侵入者の行動をしっかりとレコーダーに記録します。



警戒エリア 2 被害を未然に防ぐ、警告・威嚇。

さらに警戒レベルの高い見守りエリアでは、威嚇用照明やフラッシュライト、サイレンなどの威嚇システムを起動。

遠隔操作で侵入者の行動を見ながら、被害に遭う前の確かなタイミングで、肉声による警告（声掛け）や、照明、電気錠のON/OFF操作を行うこともできます。



本日の営業は終了しています。何かご用ですか！



詳細はすでに述べたとおりだが、システムの組合わせ（機器構成）を変更することにより、不審者の侵入を検知すると管理者の携帯端末（スマートフォンや自宅のパソコンなど）にメールで通知し、管理者は携帯端末を通じてライブ映像の確認や侵入者への警告・威嚇などを、遠隔からリアルタイムに行うことができる。

この遠隔見守りシステムとしては昨年3月から発売されており、すでに導入しているディーラーも少なくない。同社によれば、導入理由の大半は「展示車両や預かり車両からのカーナビをはじめとする部品・用品の盗難対策」であり、これらのディーラーからは「導入後は被害に遭わなくなった」との声が寄せられているという。また、発売後間もないものの、ナンバー検知・おもてなし支援システムの導入も着実に進んでおり、こちらについても「お客様をスムーズにお出迎えすることができるようになり、当社に対するお客様の信頼のさらなる向上が期待される」「限られたスタッフの中で最善のおもてなしを行うのに役立つ」といった声も寄せられている。

注目のディーラー支援システムとして、次号以降で導入店舗のレポート記事を掲載する予定だ。

（アフターマーケット 2014年4月号）